

た。経膈分娩にて体重3170gで出生、生後17分でHFO管理を開始した。生後2時間よりPPHNとなり、さらに生後8時間で両側気胸となったが、胸腔ドレナージにてStabilization行いつつ第3生日にCCAMの診断で手術を行った。手術所見では左下葉と上葉S3の肺分画症と診断した。術後経過中、右肺は術後第1病日と第9病日に再度気胸となり、胸膜癒着療法を施行し改善した。12病日よりTube feedingを開始したが、17病日ころから左右の乳び胸となった。乳び胸は保存的治療にて30病日ころには改善したが、徐々に全身の浮腫が進行し呼吸管理に難渋したが、54病日に呼吸器から離脱、72病日に退院した。

II. 特別講演

「胎児期尿路閉塞の腎発生への影響について」

聖マリアンナ医科大学小児外科

北川博昭

第1回新潟遺伝子治療セミナー

日時 平成13年9月29日(土)
午後1時～5時
会場 医学部附属病院
MINCS新病棟3階

I. 研究発表

1 *In vivo* electroporationによるpCAGGS-Epoのラットの筋肉への導入と持続発現

丸山 弘樹・安宅 謙・樋口 昇
伊藤 由美・風間順一郎・下条 文武
長谷川 進*・須川 誠**・樋口 正人**
根市 知宏**・宮崎 純一***
新潟大学第二内科
同 血液浄化部*
中外製薬**
大阪大学大学院分子治療学***

2 心筋炎モデルラットへのIL-10導入について

渡辺 賢一・Miril Wahed・馬 梅蕾
井上 幹雄・斎藤 由紀・仲沢 幹雄*
小玉 誠**・埜 晴雄**
相澤 義房**・下条 文武***
丸山 弘樹***・宮崎 純一****
新潟薬科大学臨床薬理学
新潟大学保健学科*
同 第一内科**
同 第二内科***
大阪大学大学院分子治療学****